



平成24年2月

= 発行 =

秋田県生涯学習センター

〒010-0955 秋田市山王中島町1-1

TEL : 018-865-1171

FAX : 018-824-1799

E-mail : sgcen002@mail2.pref.akita.jp

編集担当：社会教育アドバイザー

立春を迎えましたが、北国秋田は銀色の世界に埋もれたままです。今年は積雪量が記録的に多く除雪作業の悲鳴があちこちから聞こえています。美しい墨絵の世界を楽しむ暇がないのが実情です。

昨年、コンビニで「恵方巻きの注文！」という文字を目にし、早速注文しました。初めて知る「恵方巻き」という言葉です。節分の日に受け取りに行ったら、具のいっぱい入った太巻き寿司でした。南南東を向いて1本を無言で食べ切ると願いが叶うとのことで、必死に食べました。

「恵方巻き」は、江戸末期から明治の初期ごろ、大阪の商人の商売繁盛祈願から始まりました。一時途絶えたこの風習は、戦後1970年代に復活しました。全国的に広まったのは、1990年代から2000年にかけてです。2012年は、北北西やや右の方角がよいとのことでした。

### 男女共同参画教育のスタートは、何歳？



男女平等や男女共同参画の意識の定着を図るには、幼児期からのスタートが大切だと言われています。男女が共に性に対する知識と判断力を身に付け、互いに人権を尊重していく態度を育成していくことが求められていますが、家庭・学校・地域でも意識しながら子育てに当たることが必要です。

県の調査によると、「学校では男子も女子も同じように活躍の場がある」と思っている割合は87.0%で、「社会では性別に関係なく平等に活躍する場がたくさんある」と考えている割合が68.3%とのことです。学校と比較すると、社会ではまだ男女平等の精神が行き渡っていないと感じているようです。

秋田県男女共同参画情報誌【ラヴィータ】に、秋田県南部男女共同参画センターによる湯沢翔北高校2年生241名を対象とした出前授業の様子が紹介されていました。機会あるごとに一度男女共同参画の学習が必要と感じております。

古節ひ  
書分よ  
市やっ  
の鬼こ  
戦追り  
利うど  
品子友  
なら訪  
りのね  
日笑来  
脚いし  
伸声寒  
ぶ明  
武藤くる  
素魚

平成23年度生涯学習・社会教育研究大会より 平成24年1月26日

大会テーマ つなげよう！地域のチカラ・教育の力

～今、教育力向上のために私たちができること～



茨城大学准教授 長谷川幸介氏の講義「生涯学習・社会教育と地域の教育力」では、「人は独りでは生きられない。一人前になるために、子どもは毎日三角形の鳥居をくぐっている。学校が授ける力：学力、地域が授ける力：社会力、家庭が授ける力：自己肯定力の三角形の鳥居である。今、この3点の調和が崩れていびつになっている。」という言葉に考えさせられました。

続いて、三種町、大仙市、にかほ市からの実践発表がありました。地域の教育力向上のために頑張っている3市町村の実践発表は、大会テーマに直結した内容豊かなものでした。熱意と創意工夫が伺える貴重な情報提供でした。



< 地域マイスターの底力！ > 子どもたちは、体験を通して人間力をアップします！

◎ めざせ！ジュニアマイスターズ！ 平成23年12月26日（日）大潟村干拓博物館



地域マイスターの  
進行ぶりに感動！

うわぁ！うまく  
染まったぞ！

地域マイスター養成講座修了者が、大潟村で「目指せ！ジュニアマイスターズ！」を企画し実践しました。内容は、あかね染め・たたき染めとタイリクバラタナゴの学習でした。子どもたちは、ジュニアマイスターをめざして頑張りました。干拓博物館職員の指導もあり、楽しい内容でした。

◎ 高校生も、多数参加！美の国キッズ&ユース・カレッジ 秋田キャンパス

平成23年11月20日、地域マイスター養成講座修了者10名の企画・運営による講座が開催されました。小学生18人、高校生32人、合計50人の参加を得て充実した講座となりました。小学生のほかに高校生の参加が多く、秋田市の地域性が活かされた講座になりました。



☆「子ども新聞記者になっちゃおう！」（小学校5・6年生）

魁新報社の新聞記者から新聞記事の書き方を学んだ後、ねぶり流し館職員の案内でお祭りのふれあい体験をしたりねぶり流し館で取材をしたりしました。そして、新聞記事の作成に取りかかりました。熱心に取材し、創意工夫を凝らした記事を作成していました。



☆「お祭りから秋田市を学ぼう！」（高校生）

秋田市竿灯会会長から「竿灯について」の説明、土崎神明社宮司から「土崎曳山について」の説明を受け、その後、ねぶり流し館見学や竿灯体験をしました。最初のワークショップ「秋田市のお祭りを語れますか？」と最後のワークショップ「ふるさとの情報発信者になろう」を通して、参加者の変容の大きさに感心したとスタッフがしみじみと語っていました。

【各地区のキッズ&ユース・カレッジを取材して】

体験を通して地域の自然や歴史、文化を知ることが、次世代教育にとってとても重要なことです。日本のどこにいても、世界のどこにいても、誇りをもってふるさとを語ることでできる人材を育成することに大きな意義を感じます。社会教育の場での学びは、五感を十分に活用した豊かな体験の姿があり、取材していてもわくわくしました。笑いあり、感動あり、地域マイスターとの人間的なつながりありで、有意義な内容に満ち溢れていました。県や各市町村の社会教育関係者ネットワークの絆の強さも、講座の効果を高める大きな力になっていました。地域マイスター養成講座と美の国キッズ&ユース・カレッジは、多岐に渡る効果が期待できる意義の大きい講座であると感じました。